

助成年度：平成 21 年度

[所属] 東京海洋大学 海洋科学部

[役職] 教授

[氏名] 河野 博

[課題]

住民の協働による東京湾沿岸域管理モデルの構築

[内容]

本研究は、埋立て・富栄養化により環境劣化が著しい状況にある東京湾において、持続的利用の仕組みづくりを地域から提起することを最終目的とする。ワークショップ等を通じて『1) 地域住民が自然生態系・環境に関する知識を共有し、2) 資源利用をめぐるコンフリクトについて理解を共有し、3) 沿岸漁業を基礎とした沿岸域管理の仕組みを協働で構築する』といったプロセス・モデルの提示を目標に、次の3つのテーマについて研究・教育活動を地域の博物館、漁業者、環境教育実践者などとともにおこなった。

- ・ テーマA：河口域生態系学習プログラムのデザイン（自然科学的アプローチ）
- ・ テーマB：沿岸漁場利用におけるコンフリクト・マネージメント（社会科学的アプローチ）
- ・ テーマC：大学－地域間協働による社会的学びの場のモデル・デザイン（協動的アプローチ）

助成期間中、地域住民との参加型ワークショップ、環境教育インタープリター集団との協同による海洋教育、漁業者・研究者を招いてのサイエンス・カフェ、インタビュー調査、資料収集等を計画・実施・評価のサイクルを通して改善しながら実施し、最終的に、住民が東京湾の持つさまざまな側面について、「知識の共有→体験の共有→理解の共有」を繰り返すことによって、これからの望ましい東京湾のあり方を提案へと収束・発展していく形の沿岸域管理の基礎構築モデルを提示した。